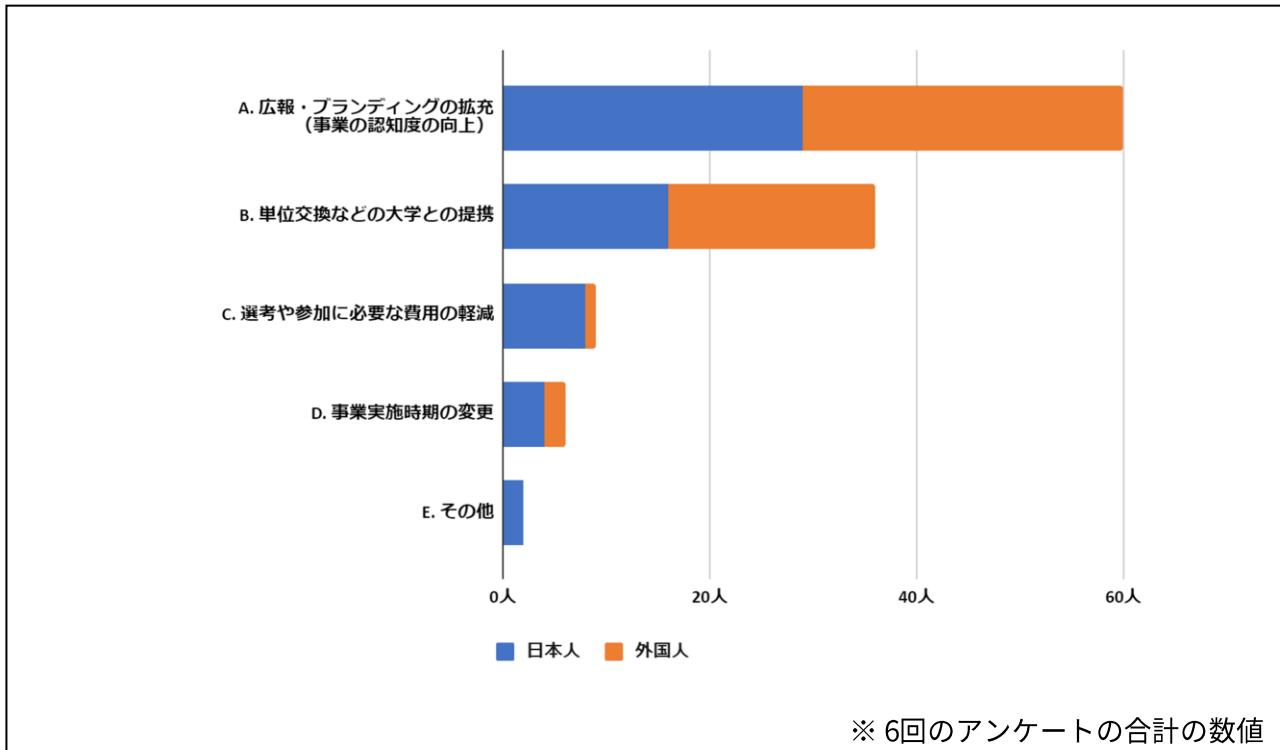


質問1-4-1. 「世界青年の船」事業をより応募/参加しやすいものにするためには、今後どのような対応が必要だと思いますか？（複数回答可）

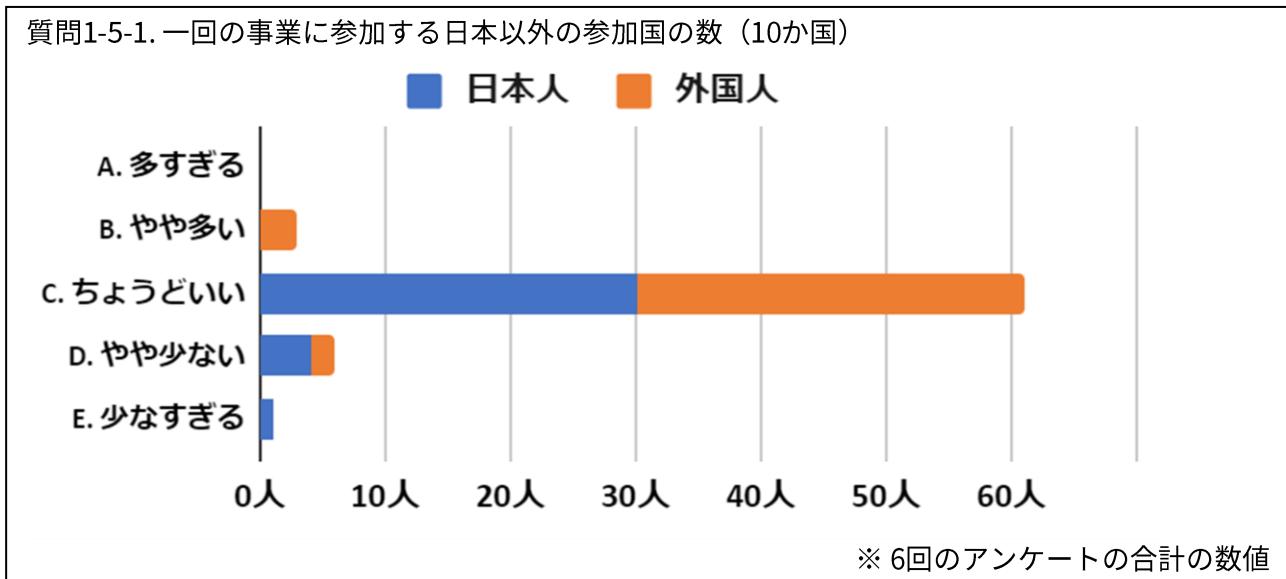
※過去に「世界青年の船」事業に参加した経験がある方のみ回答



質問1-4-2. 上記の回答の理由（一部を抜粋）

代表としてのブランディングがあまりないのが現状だと思う。
大学生以外にも社会人などの多様な人にアプローチして参加者の多様性を高めたい。
参加者の多様性のため地方の学生や理系の学生などにも広報を強化してほしいと感じた。
認知度が十分でない。
東京から遠い地域からの参加のハードルを取り除く必要。
日本の競争率が圧倒的に低い。

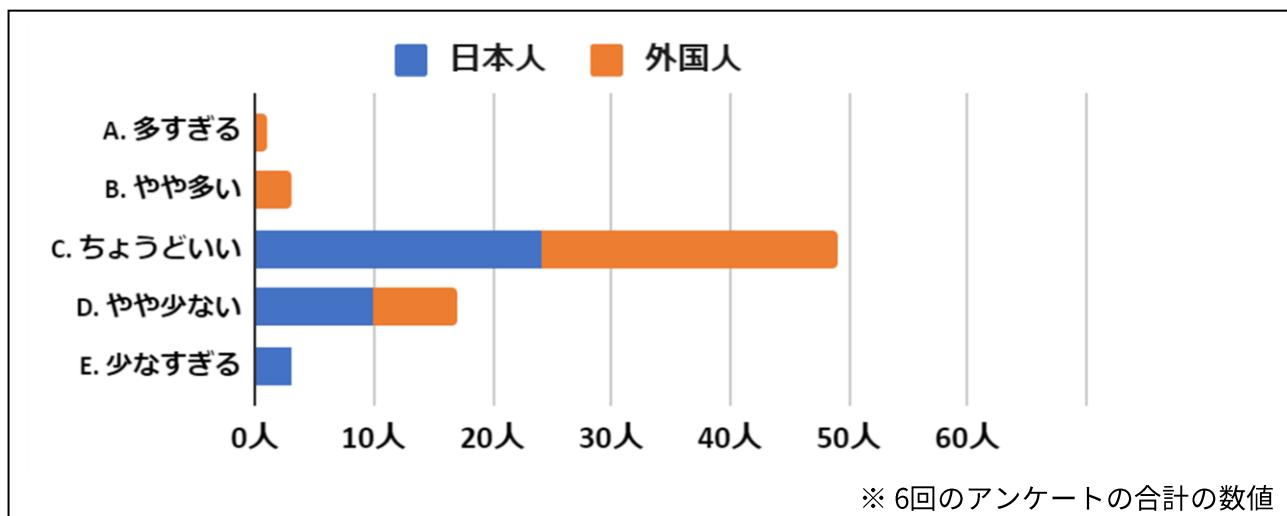
質問1-5-1. 多文化共生の観点から、「世界青年の船」事業がより多様性を充実させるために、一回の事業に参加する参加国数や代表青年の数はどのようなバランスになると理想的ですか。
※過去に「世界青年の船」事業に参加した経験がある方のみ回答



質問1-5-2. 上記の回答の理由（一部を抜粋）

- 7~8国くらいだと相手国をより深く知ることが出来ると思う
- 10か国という国数は多様な文化に触れ、各国の青年と密に交流を深められるという点において適正だと思う。国数が多すぎるとお互いの文化を知ることができなくなると思う。
- 文化と世界の多様性を知ることができるちょうどいい国数だと思う。現状通りの国数と日数であっても学ぶ機会は非常に多いので現状維持が理想だと思う。
- もっと様々な国からの参加者が集まればいいが、全員と十分に知り合う時間が十分にあるかどうかわからない。
- 5大陸からさまざまな意見を取り上げるにはこれくらいの国が妥当であると思う。
- それぞれの国のことを探るにはナショナルプレゼンテーションなどの機会が役立ったと思いますが、そのような機会を設けるには今くらいがちょうど良いと思っています。
- 10~12か国以上がいいと思う。私の経験として、世界中の人たちと交流を深められるだけではなく、同じ地域における他国との違いについても理解することができた。
- 世界中にたくさんの国が存在しているので参加国数をもっと増やすべきで全員が参加できる機会があるべきだと思う。
- 参加国の地域がばらけたほうが多い多様性の側面から良いと思う。

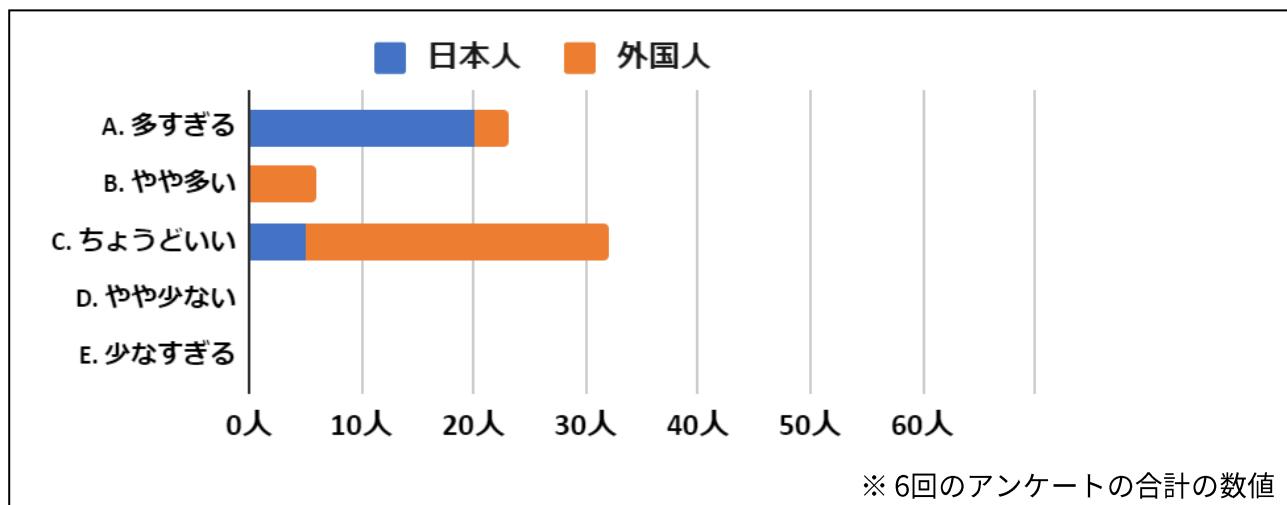
質問1-6-1. 一回の事業に参加する日本以外の参加国の代表青年の数（各国約12名）



質問1-6-2. 上記の回答の理由（一部を抜粋）

- それぞれスキルを十分に発揮しながらも、チームとしての結束力を保つのに適した人数だと思う。
- 自分が参加した時は各国12名ずつの代表青年が参加したが、異なる文化や価値観を知るのに適した人数であったと思う。それが違った個性やバックグラウンドを持ち、異なる文化を表現することができていた。
- 人数拡大よりも参加頻度を重視すべき。
- ちょうどいいと思う。それより少なくしては同国人でも多様な意見を聞くことができないから。
- さまざまな活動で別の外国青年と触れ合う機会を増やすことができた。また、多すぎずお互いを認知しやすい数なので、ちょうどいいと思う。
- 多くの応募があるため、もっと参加人数を増やしてより多くの優秀な人材が参加できる機会を提供できればと思う。
- 国が少なくて参加者の数が多いと「同じ国でもこういう人もいる」と多様性を受け入れられるようになるので、もう少し増やせるといい。少人数の特殊な人が参加するだけだと、相手国もそのようなものかと勘違いしがちである。
- 男女同数の参加青年にナショナル・リーダーを加えた奇数の人数となるのが理想だと思う。
- やや少ないと感じます。おそらく人数としては丁度良いのですが、日本人の120人という人数と比べた時には少ないように思います

質問1-7-1. 一回の事業に参加する日本の代表青年の数（約120名）



質問1-7-2. 上記の回答の理由（一部を抜粋）

他国の代表青年に比べて日本の代表青年の数が多く感じた。どのアクティビティでも半数が日本の代表青年になってしまって、外国の取り組みを知る機会や発信する機会が少なかった。また、日本の代表青年同士で固まる場面も多くあったので、少なくとも良いと思う。

多くの日本人が参加できるための制度には大賛成なのですが、日本代表の参加青年が常にマジョリティの環境・状態になってしまふことに対して改善が必要だと思います。質とは関係なしに、日本代表の参加青年が常に数で圧倒できてしまうので、海外の参加青年も引かざるを得ないような状況が多々あったように思えます。

ちょうどいいと思う。日本の代表青年の数を少なくすると、全都道府県ではなく限られた所からの参加者に偏るので？

現在は日本代表の参加青年が大多数を占めていますが、そのおかげで海外の参加青年は日本人をより深く知り、日本人に対しての固定観念を覆す機会となっているのではないかと考えます。日本代表の参加青年に比べると、他国の参加青年は少人数ではありますが、ホスピタリティを持って互いに協力し合うことを心がけることでプログラムは上手く機能するのでは無いでしょうか。

日本が主催国であり、参加者の半数である日本参加青年が本事業を通して経験や友情、協力関係を培うことで、日本参加青年の中から将来リーダーシップを発揮できる地位で活躍する人が輩出されるのでよいと思う。

このプログラムの主な目的は日本参加青年が世界について知ることであり、日本政府が主催しているため参加青年の半数が日本人であることは適正であると思う。